

東亞天文協會觀測部月報

流星課觀測報告 Monthly Report, Meteor Section (44).

課長 小槇孝二郎 (Kōziryō, Komaki, President)

月の邪魔で、五六月とも中旬に於ける觀測が少い。しかし五月の水瓶座流星群は上旬で夜明前の點から、六月のケンネケ流星群は下旬宵の點から、都合よい關係におかれた。一月から三月頃まで休んでゐられた吉井君が、四月から著しい活動を開始せられたので觀測數に於て斷然頭をあらはされた。本田君の勉勵も著しい。

當月には未だ觀測が發表されるに至らないが、下記の流星課員を得た。近畿班の一員として活動を希望する。

宇野良雄君

京都市四條高倉野村銀行内

觀測者、觀測地及觀測數 (Summary for May & June, 1833)

觀測者 Observer	略符 Abbr.	觀測地 Locality	五月 (Sept.)			六月 (Oct.)		
			回数 Nights	時間數 Duration	流星數 Meteors	回数 Nights	時間數 Duration	流星數 Nights
本田實	Hd	鳥取縣八東村	5	200	28	5	350	45
稻垣武五	Ig	東 京 市	3	140	9	1	40	2
吉云耕一	Ys	廣島縣竹原町	7	540	63	9	937	121
勝修三	Kt	東 京 市	4	195	14	1	55	3
小槇孝二郎	Ko	和歌山縣金屋	1	30	3			
阪元鐵馬	Sk	福岡市外箱崎	1	30	2			
八幡修一	Yw	長野縣平野	1	50	8			
笹部榮一	Sb	大阪府地田				1	30	5

流星群の出現狀況 (Notes on Apparitions of Swarms)

五月上旬の水瓶座の流星群は本田、八幡、稻垣、吉井の諸君によつて5日→8日まで觀測された。別に著しい出現は無かつたらしい。まづ例年なみのものと見てよからう。

六月下旬のキンネケ流星は本年母彗星が回歸する理由から、期待をもつたが、本來微光な流星である點から、變つた結果は得られなかつた。本田、吉井兩君によつて若干認められてゐるが、輻射點の存在すら充分には確かめ得なかつた。

五月二日早曉、勝、稻垣兩氏の同時觀測中にヘルクス座に輻射點を有つ一流星群を觀測されてゐる様であるが、結果は充分のものではなかつた。

其他には特記すべき流星群の觀測はなかつた様である。

觀測結果の概要 (Daily Summary for Observations)

月日 Date	觀測者 Obs.	觀測開始 Begins	觀測終了 Ends	時間數 Dur.	Factor	流星數 Meteors	備考 Remarks	月日 Date	觀測者 Obs.	觀測開始 Begins	觀測終了 Ends	時間數 Dur.	Factor	流星數 Meteors	備考 Remarks
May 2	Kt	0 50	1 50	60	0.6	6		May 18	Ys	21 30	24 0	150	0.9	11	
21	„	0 10	1 15	65	0.8	5		21	„	22 5	23 55	110	1.0	11	
24	„	0 40	1 20	40	0.7	1		June 24	Sb	22 25	22 55	30	1.0	5	
27	„	22 45	23 15	30	0.6	2		26	Kt	22 50	23 45	55	0.6	3	
6	Hd	3 35	3 55	20	0.5	3	A 3	28	Ig	0 0	0 40	40	0.4	2	
7	„	2 15	3 45	40	0.9	12	A 2	5	Hd	1 35	2 55	80	0.9	7	
8	„	2 40	3 40	60	0.6	5	A 5	24	„	22 20	22 50	30	0.6	3	
23	„	20 40	21 10	30	0.8	3		{26 27	„	22 5	0 5	120	0.8	16	W11
24	„	2 30	3 20	50	0.7	5		29	„	21 30	22 30	60	0.8	4	
7	Ko	3 30	4 0	30	0.5	3	A 2	30	„	2 30	3 30	60	1.0	15	
29	Sk	21 50	22 20	30	0.3	2		6	Ys	2 52	3 40	47	1.0	4	
8	Yw	2 50	3 40	50	0.8	8	A 3	11	„	20 55	22 45	110	0.9	13	
2	Ig	0 50	1 50	60	0.55	6		16	„	21 10	21 40	30	0.9	1	
5	„	3 5	3 45	40	0.4	3	A 3	19	„	0 55	3 25	150	1.0	22	
24	„	0 40	1 20	40	0.7	3		{23 24	„	21 55	0 25	150	0.9	21	
4	Ys	3 50	4 20	30	0.7	4		24	„	21 0	22 20	80	1.0	10	
6	„	3 10	4 10	60	0.8	7	A 3	{26 27	„	22 15	0 20	125	0.8	12	
7	„	2 55	4 15	80	0.9	16	A 7	30	„	0 0	3 35	215	1.0	38	
8	„	3 0	4 20	80	0.7	8	A 3	8	„	20 55	21 25	30	0.7	0	
12	„	21 20	21 50	30	0.8	1									

備考 Remarks.

1. 時刻はすべて日本中央標準時 (J.C.T.) である。
2. A は水瓶座 η 流星群に屬する流星。A= η -Aquarids.
3. W はキンネケ彗星に關聯する流星である。W=Winnecke's Meteors.

火球の觀測 Fire Balls observed.

日付 Date	觀測者 Obs.	出現時刻 Time (J.C.T.)	確度 Wt.	繼續時間 Duration	光度 Mag.	速度 Velocity	色及其他 Colour &c.	出現點 Appearance		消滅點 Disappearance		流星群 Swarm
								α	δ	α	δ	
May 4	Fk	1 ^h 50 ^m ±3	3	3.0	2× Venus		Orange	234°	+ 14°	172°	+ 17°	*
,,	Hd	2 23		1.8	Venus	rR	RB	257	- 24	217.5	- 20	△

* 信太山演習地に於ける福井實信氏の觀測。尾は白色、約3.5m、全長に互る。痕は最後の長60°、約0.4秒残る、分裂せるもの思はる。音なし。

△ 痕に火粉をひき、飛行。2秒。尾といふが正しきか？ 音なし。

備考 上記二火球は方向の點から同一のものらしいが時刻に基だ相違があるので紹介中である。

觀測より得られたる輻射點 Radiant Points derived from Observations.

番 號 Curr. No.	觀測時刻 Time (J.C.T.)	輻 射 點 Radiant Pt.		流星數 ↙	確 度 Wt.	觀測者 Obs.	備 考 Remarks
		R. A.	Decl.				
1255	May 5.14	332°	+ 2.5°	3	2	Ig	η -Aquadrid
1256	22.96	247	+14	4	3	Ys	ω -Herculid
1257	June 23.96	218	+33	5	2	Ys	ρ -Bootid
1258	26.96	218	+57	5	3	Hd	Winnecke-Meteor Swarm

新設の 遊星面課より

かねてから、遊星の表面觀察に興味を持つ會員たちが、わが觀測部に新しい一課を増すことを要望されてゐたので、心は動いてゐた矢先き、60年ぶりで土星が活躍し始めたため、いよいよ「遊星面課」(Planetography Section)を創設することにした。課長は當分山本博士、幹事としては、經驗深い木邊宮本兩氏に御願ひする。

今まで、我が國に於いて遊星面の觀察をした先輩や經驗家の名を下に掲げる。

(故)申村氏、R. Schofield 氏、(故)三宅義夫氏、山本一清氏、龜井壽彦氏、木邊成麿氏、宮本正太郎氏、稻葉通義氏。

來る十月17日の本會の例會で、山本博士の「遊星面觀察法」は時節がら聞きもらしてはならない(部長)

本課へ加入希望者は、至急に、住所、氏名、土地の氣流狀態、器械の口径と F と型式と作者等、今までの經驗、今後主として何星を研究するか等を、滋賀縣洲郡中里村 木邊成麿 あてに知らせて下さい。

黃道光課報告 (1933年IV月)

課長 荒木健兒

宵西天の黃道光は淡くなつて、あはれの殘骸を止める。かういふ時に臺灣の觀測が特に眼につく。對日照の位置は南天低い銀河の中で、Barnardの言の通り、觀測は一個もない。

宇宙線の問題がしきりに論ぜられる。黃道光や對日照もあんなに騒がれてほしいと少しヤケてゐる。宇宙線が電磁的現象であらうと、電子的現象であらうと、太陽黒點やオロラと結んで、いつかは握手を求めに来るにちがひない。

觀測者はすべて7名、觀測總數僅かに17個。来るべき秋の暁が待たれる。

1. 觀測者(地方順にする)と觀測日一覽

觀測者	觀測地	觀測日	觀測數
笹部榮一	大阪府池田町	9 24	2
佐々木一二	京都府福知山	23	1
橋本迪	兵庫縣相生町	11	1
本田實	鳥取縣八東村	10 11	2
荒木健兒	倉敷天文臺	24	1
淺野英之助	山口縣長府町	11	1
松本武男	臺中市	18 22 23	3

2. 黃道光の北側(右方)外形と頂點の偏り

この頃見える常として頂點の北方偏位が明かに觀測されてゐる。以前觀測者が少なかった頃は頂點が黃道から北 -8 度も離れてゐることが不思議とされてゐたが、この頃では北側外形の黃道線と平行なことと共に明かに見られてゐる。

3. 光帯の明るさ

笹部君の9日の觀測は東天に大きい月が上つた時刻で、黃道光は獅子座の火木兩星に達せず、更に上部に離れて、光帯を黃經 210° 邊まで認めてゐる。而もこの光帯が月明に拘らず認め易いところから、光帯が黃道光の本體と關係が少いとの見解を笹部君は持つやうになつた。24日の觀測にも同様に認めてゐる。

4. 臺灣に於ける松本君の觀測

18日と22日には頂點のあたりが不明で、光帯がとられてゐないが、そんな時には離角の値は驚くほど小さい。而も大變化が認められるのであるから面白い。濁色を見てゐるのは空氣のためであらう。幅はあまり廣くなく、六月下旬といへばさすがに衰へるものである。

5. 對日照 — ?

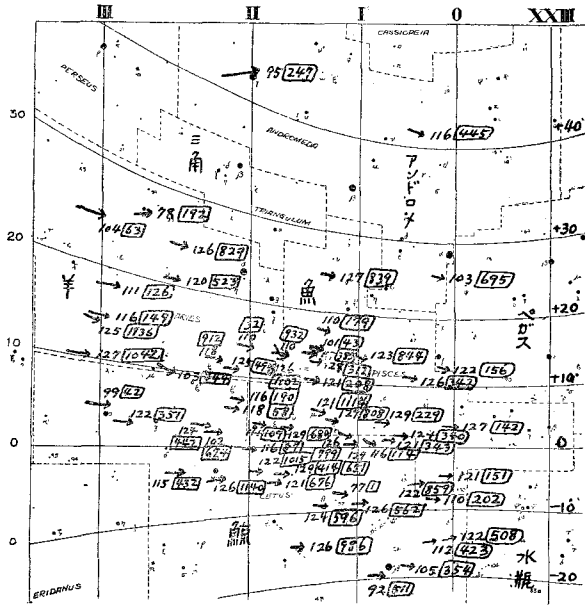
笹部君の24日の Sketch に光帯の東部に廣い光輝がある。銀河に入る前のあたりで、少し西寄りすぎるが明かに認めてゐる。この夜は變動が加へられてゐる。

太陽課 黑點相對數報告 (1933年八月)

觀測者(地名)	松本(臺中)	淺野(長府)	山田(小郡)	荒木(倉敷)	改發(須磨)	崔部(神戸)	伊達(雲雀丘)	佐々木(福知山)	大橋(京都)	西村(京都)	龜井(花山)	木邊(近江)	森(大垣)	三澤(諏訪)	沓掛(長野)	清水(島田)	水谷(東京)	稻垣(東京)	千葉(水澤)	下保(札幌)
鏡徑	50	70	75	75	150	75	36	150	90	60	55	73	78	73	102	100	38	75	50	58
倍率	40	60	48	75	68	77	55	64	94	90	64	60	92	83	75	73	50	30	50	44
方法	直視	直視	直視	直視	直視	直視	直視	投影	直視	直視	直視	直視	直視	直視	直視	直視	直視	直視	直視	直視
1	0	0	曇	曇	0	0	0	0	0	病	0	曇	曇	0	0	0	0	旅	曇	0
2	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	0	欠	病	曇	曇	0	0	曇	雨	0	旅	曇	0
3	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	0	欠	病	曇	曇	0	0	曇	雨	0	旅	曇	0
4	0	0	曇	曇	曇	曇	曇	0	欠	病	曇	曇	0	0	曇	雨	0	旅	曇	0
5	0	0	旅	曇	曇	曇	曇	原	0	0	曇	曇	病	0	曇	0	0	0	0	0
6	0	曇	行	0	0	曇	曇	稿	欠	欠	曇	曇	氣	0	曇	0	0	雨	0	0
7	0	0	の	0	0	曇	曇	締	欠	欠	曇	曇	の	0	曇	0	0	雨	0	0
8	0	0	た	0	0	曇	曇	切	欠	欠	曇	曇	た	0	曇	0	0	雨	0	0
9	曇	0	め	0	0	曇	曇	ま	0	0	曇	曇	め	0	曇	0	0	0	0	0
10	曇	0	休	0	0	曇	曇	で	0	0	曇	曇	休	0	曇	0	0	0	0	0
11	0	雨	測	曇	0	曇	曇	に	0	0	曇	曇	測	0	曇	0	0	0	0	0
12	0	0	0	曇	0	曇	曇	到	欠	0	曇	曇	0	0	曇	0	0	0	0	0
13	0	曇	0	曇	0	曇	曇	着	0	0	曇	曇	0	0	曇	0	0	0	曇	0
14	0	0	0	曇	0	曇	曇	せ	0	0	曇	曇	0	0	曇	0	0	0	曇	0
15	0	0	0	曇	0	曇	曇	ず	0	0	曇	曇	0	0	曇	0	0	0	曇	0
16	0	0	0	曇	0	曇	曇	0	0	0	曇	曇	0	0	曇	0	0	0	曇	0
17	0	曇	欠	0	0	曇	曇	0	0	0	曇	曇	0	0	曇	0	0	0	曇	0
18	曇	0	0	0	0	曇	曇	0	0	0	曇	曇	0	0	曇	0	0	欠	欠	雨
19	0	0	0	0	0	曇	曇	0	0	0	曇	曇	0	0	曇	0	0	欠	欠	0
20	0	0	0	0	0	曇	曇	0	0	0	曇	曇	0	0	曇	0	0	欠	欠	0
21	0	0	0	0	0	曇	曇	0	0	0	曇	曇	0	0	曇	0	0	0	0	曇
22	0	0	0	0	0	曇	曇	0	0	0	曇	曇	0	0	曇	0	0	0	0	0
23	0	0	0	0	0	曇	曇	0	0	0	曇	曇	0	0	曇	0	0	0	0	0
24	0	0	0	0	0	曇	曇	0	0	0	曇	曇	0	0	曇	0	0	0	0	0
25	0	0	0	0	0	曇	曇	0	0	0	曇	曇	0	0	曇	0	0	0	0	0
26	0	0	0	0	0	曇	曇	0	0	0	曇	曇	0	0	曇	0	0	0	0	0
27	0	0	0	0	0	曇	曇	0	0	0	曇	曇	0	0	曇	0	0	0	0	0
28	0	0	0	0	0	曇	曇	0	0	0	曇	曇	0	0	曇	0	0	欠	欠	0
29	曇	0	雨	0	0	曇	曇	0	欠	欠	曇	曇	0	0	曇	0	0	欠	欠	曇
30	0	0	欠	0	0	曇	曇	0	0	0	曇	曇	0	0	曇	0	0	0	0	曇
31	0	欠	0	0	0	曇	曇	0	0	0	曇	曇	0	0	曇	0	0	0	0	曇
平均	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
日數	27	21	24	25	26	22	15	19	20	14	30	28	25	24	23	17	30			

寫 眞 課

1933年十月中旬の小遊星圖



豫告. いつも単調に、只、毎月の小遊星圖ばかり發表してゐるやうに見えますが、我が寫眞課はコツソリと、仲々活躍してゐるのです。來る十一月には、京都の街頭に出て「天體寫眞展覽會」を開きます。又、十二月には、花山で、「天體寫眞術の講習會」を開きます。遠近より大に來り賑はし給へ!!

我が寫眞課は、なかなか多方面に天體研究をなし得る分野があるのです。赤道儀の裝置さへ持てば、小型のカメラで、眼に見えない彗星や小遊星の撮影、天空の星圖の作製、太陽の黒點や白斑の撮影、變光星の搜索や連續撮影による觀測、黃道光や大流星等の試驗撮影、等々々々、大に御奮闘下さい

“遊星面課が新設された”

本會々員は觀測部に加入せられよ

本協會の觀測部は去る大正十年九月に組織されたもので、既に十三年の輝やかしい歴史を有し、“Observing Section, O. A. A.” の名の下に、全世界同志と相携へて、直接に學界と接觸してゐる。一昨秋、部の規約を新たに定めて陣容を整へ、部長の監督の下に、次の各課の活躍が行はれてゐる。今夏、土星白紋の發見を好機として、熱心な會員の要望により、遊星面課が新設された。

1. 流星課 (課長 小楨孝二郎)

全國を六班に分ち、絶えず課報其の他による連絡を取りつゝ觀測を遂行してゐる。觀測報告は日英兩文のものを「天界」に發表し、又、特殊なものは花山ブレテンに載せる。甲乙二種類の流星用星圖を出版してゐる。

2. 彗星課 (課長 柴田 淑次)

絶えず新彗星の搜索を奨励し、又、觀測をなし、「花山急報」に豫報を出してゐる。

3. 變光星課 (課長 小山 秋雄)

日本變光星學會と密接に連絡し、觀測を奨励し、星圖の研究や發行をしてゐる。

4. 太陽課 (課長 上 島 昇、幹事 山本 英子)

黒點觀測に全力を集中し、全國に十數名の課員を以つて、活躍してゐる。

5. 黃道光課 (課長 荒木 健兒、幹事 淺野英之助)

米國カネギ學院と連絡を取りつゝ東洋の黃道光現象並びに黃道帯や對日照の觀測をし、結果は花山のブレテンや急報及び米國カ學院で發表する。

6. 豫報課 (課長 山本 一清、幹事 柴田 淑次)

年鑑の編輯や天體諸現象の計算豫告をし、花山ブレテンや急報を賑はしてゐる。

7. 機械課 (課長 木邊 成麿)

觀測器械の設計をし、又、製作や使用上の指導や研究をしてゐる。

8. 寫眞課 (課長 龜井 壽彦)

天體寫眞の研究と指導をなし、中村急報を發行し、又、教育用の天文幻燈を製作してゐる。

9. 遊星面課 (課長 山本 一清、幹事 木邊成麿及宮本正太郎)

10. 月面課 } (近く開設の豫定)

11. 掩蔽課 }

本會々員は單に加入申込みと部費納入により、何れの課にでも加入することが出来る。加入と共に、課長との連絡により、其の指導を受けて、天體觀測の經驗的興味と各種の特權とが與へられる。